

MOON

三日月

気がつくときさっきまでの雪はやみ、尖った三日月が夜空に冷たく光っていた。少女は空を見上げ、凍りついた空気を吸い込んでつぶやいた。とうとう来たんだ。夢にまで見たこの場所へ……

おじいさんが話していたこの場所へ、

お母さんが行ってしまったこの場所へ、

降り続いた雪の中をもうどのくらい歩き続けてきたのだろうか。ここまで来ればきっと誰かに会えると信じていたから、寂しいこともつらい事も何でもなかったが、幾日も幾日も歩き続けた足は凍えてふるえが止まらない。少女はポケットからマッチを取り出してつけてみた。

マッチの光りはぼっと明るくまわりを照らし、少しだけ暖かかった。

もう一度、マッチを取り出してつけてみた。

光りの中でおじいさんが笑っているのが見えた。

やっぱり、ここにはおじいさんがいると少女は思った。

もう一本マッチを灯すと、お母さんが微笑んでいるのが見えた。

やっぱり本当だった。

夢に見た場所にやっと辿り着いたんだと、少女は思った。

もう一度夜空を見上げると、まだ三日月が光っている。

もう寒さを感じなかった。その夜の尖った三日月はなんだか温かく見えた。

少女は一人微笑むと、

真っ白な雪の中に自分一人だけがすっぽりと入れる窪みを掘り、

その中にもぐり込み横たわった。

そして三日月の光の下、一人静かな眠りについた。



COLUMN

鎌倉の猫事情 第十五話

今年の冬の寒さは、猫ならずとも一日中ストーブの前で丸くなって居たいほどです。ここ数年暖冬続きで、なまった身体にはこたえます。

ところがこの寒さの中、新年会と称してミルクホルのメンバー達による寒中バーベキューを催すことになりました。

もともと日本海の海の幸を皆で食べようという計画で、金沢の魚屋さんに新年会の当日に魚を郵送してもらって、海の幸と焼肉でやるというのが今年の新年会の目玉だったのです。が、その数日前から金沢では例年ない大雪で交通がマヒし、とても期日に魚は間に合わないという連絡が入りました。そうだったもるもるの事情もあり、『やっぱり、冬はバーベキューだろう』というマスターの一言で、寒中バーベキューを決行する事になったのです。

案の定と言うか、正月の疲れのせいもあるのでしょうか。翌日からみごとに皆バタバタと風邪で倒れていきました。スタッフ全員の新年会だったので、誰かが風邪ひいたので、他の誰かにアルバイトを頼もうにもそちらも寝こんでいるという有り様で、ミルクホルで五体満足だったのはマスターくらいなものだったのです。そのマスターも昨年暮れには『鬼のかく乱』と言われるほどの風邪をひきました。鬼のかく乱とはこういう事をいうのかと思うような真っ

赤な顔を食い縛って壮絶な形相で数日間臥せておりましたが、まもなく青い顔をして起きて来ると、あちこちをぼりぼりと掻きながら『体中が痒い、全身の皮が剥ける』と言い始めました。まさかと思いましたが、十日ほどで本当に体中の皮が一枚剥けてしまったのです。一枚剥けたら元気になったそうで、わけのわからない直し方をする人もあるものです。その折の健康診断で異常なしの折り紙をもらって以来、また生き返ったように元気に飲み食いしていますから、もうあきれて風邪のほうでもよりつかないのでしょうか。

猫だって風邪はひきます。ゲーニー君とお嫁さんとなったスィーピーとは仲むつまじく暮らしていました。猫の間でも時折めごとはあるようですが、大体1時間もすると喧嘩した事も忘れるようです。ゲーニー君は感心にもお兄さんらしく、いつでもスィーピーに先にご飯を食べさせてやっていますし、皆に恐れられた乱暴者の面影はありません。いや時にはそういう事もあります……

ところが、マスターが臥せていた頃、それまで元気だった猫達の様子がだんだんおかしくなり、鼻も目も真っ赤にして大好きな缶詰ご飯にも目もくれず、命も危ういのではないかと思うほどみるみるうちに衰弱していきました。口の聞けない弱きった猫達の様子にマスターもひどく心配し、自分の風邪をおして犬猫病院に通いつめ、夜は部屋を締め切ってすっかり気弱になってしまった猫達と一緒に休んでいました。命がけ？の看病のかいあってマスターが回復する頃には猫達もまた元気に遊びまわようになったのです。本当に良かったと思うのですが、その頃風邪をひいたのは店には誰もおらず、あれは、なんだったのだろうかと思ふ不思議に思ふのです。猫の病気は人間にはうつらないとか、人間の風邪は猫にはうつらないとかいいますが、どんな確実な根拠があるのでしょうか。やはり、狭い家の中ですから、あり得ることなんじゃないですかねえ？

to be continued

